



ホームページ <http://jmja.jp/>

2011年1月15日
JMJA-News 第10号

日本マスターズ柔道協会

〒153-0065
東京都目黒区中町2-45-8-209
電話/FAX 03(3793)1846
発行 会長 清水正敬

第七回日本マスターズ柔道大会 兼 第一回 アジアグランドマスターズオープン大会



大会初日開会式 宣誓は横山悦子選手（福井）

大会をハンガリーで共に5月に行い、今年は第3回がエジプトで行われる予定です。またIJFが5大陸各地域毎に大会を行う計画で、アジア地域での記念すべき第一回グランドマスターズ大会を日本でやりたいとの全柔連よりの要望で第7回新潟・長岡大会との共催という形で出来た事は大変に意義ある事でした。日本マスターズ柔道大会も7回と回を重ね順調に知

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会会長

清水正敬

2011年の新年を迎え心より新春のお喜び申し上げます。この一年が皆様にとりまして生涯柔道を通して素晴らしい発展の年となることを祈願いたします。

昨年度を振り返りますと、マスターズ柔道は大きな変化の年でした。世界マスターズ柔道大会は、第1回1999年6月カナダ・ウエランで開催以来12回大会を運営



して来たカナダ本部が手を引く事となりました。最後の大会はカナダ・モントリオールで8月に行われました。今後は替わってIJFが、一昨年に第1回ドイツ大会、昨年第2回

名度UPと共に会員数も増加し現在約1300名となりました。4月28日の全国高段者大会、10月の全国形競技会の参加者等から柔道界で存在を認められグランドマスターズ大会に繋がった事と思っております。そこで、昨年の個々の3大会 ①IJFグランドマスターズ ②世界マスターズ ③日本マスターズについて、簡単に記して見たいと思います。

①5月のIJFグランドマスターズでは、3月になり突然にIJFより柔道着は4社メーカーに指定され、それ以外は使用できない事になりました。団を組んでの参加を楽しみにしていた多くの会員は残念ながら取止めとなり、最終的には8名の参加となりました。我々一般柔道愛好家が、白・青2着限られたメーカーの物しか使用出来ないとはあまりに無謀なやり方でした。その後5月に入り一転メーカー指定は外されました。（日本同様参加者が少なかつた為か？）また、この大会では「形の部」に於いても、大いに疑問が残りました。各国の代表選手と我々マスターズ会員が同じ場で戦うと云うオープン大会でした。これでは差の有る事は歴

然でマスターズメンバーには残念ながら入賞の機会は難しいでしょうし、国代表に対しても失礼に当たると思いました。

②最後の第12回世界マスターズは4度目のカナダで1976年オリンピックが行われたモントリオールの同じ柔道会場で行われました。従来1回より10回大会まで6月開催でしたが、IJFが始めた第1回ドイツ、第2回ハンガリー大会が5月開催の為8月となりました。日本人にとっては夏休みでありお盆の時期と重なり年間が一番旅行費用の嵩む8月15日、選手29名応援団6名で出発しました。5月のハンガリー大会があった為ヨーロッパ勢は少数で全員400名程度、17日〜22日の6日間の大会です。従来より寂しく感じられました。大会後はフランス語圏で多民族都市のトロント、フランス文化を持つケベックシティ、ナイアガラ・・・等々の観光を楽しみ、毎度楽しみに欠かさず行う現地での草の根交流会には中村浩之先生の志道館道場を訪問、カナダ指導者の第一人者で多くのオリンピック選手を育てた先生の道場で、大会の「形」でメダルを獲得した皆さんの7つの形を披露し・乱

取りで大汗後のパーティは、両国お互いに、歌に踊りの交歓で大いに楽しみ盛り上がり夜遅くまで続きました。

③第7回日本マスターズ新潟・長岡大会はお陰様で新潟柔道連盟五十嵐会長様、佐々木理事長様、開催地長岡柔道会浅野会長様、皆々様の絶大なるご支援を頂きまして、第1回アジアグランドマスターズと共催の形で成功裡に終わる事が出来ました。当初海外からの参加者数が読めず、日本開催となれば、第5回世界マスターズ講道館大会の様に(海外から600名参加)大挙して参加が有るかも?その場合は先着100名位で止めようとか試行錯誤で見守りました。申込の出足は悪く締め切り日も延長しながら全柔連・細川先生のIJFへの働き掛けで選手8ヶ国40名確保が出来どうやらアジア大会としての面目が保てたと思います。日本選手は430名で内123名が初参加で特に新潟県選手が41名とここでもご協力頂きました。逆にリピーターが300名と段々定着して来ました。日本男子で試合のみ参加した334名ではM3・M4の40代が一番多く95名次いでM7・M8の60代

が85名。少数ですが高齢者ではM11が5名で新設した85歳以上のM12が2名と元気で健康寿命を引つ張る方々が増えました。段別では5段陣が一番多く89名次いで78名の6段陣。高段者大会に出場出来ない4段以下も123名で他の大会では受け付けて貰えない60代以上で2段・3段も11名いました。40年・50年のブランクを乗り越え柔道に復帰され、生涯柔道を目指す人達への昇段への何かのポイントを検討して頂きたい時期だと思っております。

《2011年度の計画は》
マスターズの年間計画として春5月・6月の海外での世界マスターズ大会、秋9月・11月の日本マスターズ大会を楽しんで来ました。今年度は前途多難の年になるのではと予想しています。春のIJFグランドマスターズ大会はエジプトで5月21日・27日とIJF・HPに昨年8月頃より掲載していたものが12月に消え、スペインとだけで日程・場所が掲載されております。日本マスターズ大会は千葉県で行う予定ですが、日程・場所とも決定しておりません。第1回より第7回まで国

体の翌年各県柔連様にお問い合わせして国体でのノウハウを生かし完璧な運営で大変感謝しながら回を重ねて参りました。

マスターズ大会の大前提の一つが崩れる事は大変残念ですが、もし最悪の事になりましたも千葉大会は必ず行いたいと思っております。その時には千葉会員50名全員のご協力を頂き皆で今までと違った選手・審判等役

第12回世界マスターズ カナダ・モントリオール大会を終わって

マスターズ世界大会はIJF主催グランドマスターズ大会へと引き継がれる。

日本 マスターズ柔道協会

名誉会長 野口 宏水

2011年の新年 明けましておめでとうございます。本年も皆様に取しまして 生涯柔道を通じ良い年となりますようお祈り申し上げます

第12回世界マスターズ

モントリオール大会

我が日本マスターズ柔道協会よりは 特に来年以降IJFが今まで開催してきた世界マスターズ柔道協会WMJA(本部カナ

員を兼ねながらマスターズ大会作りに繋げ、今後続く会員の少ない県でも会員のご協力を頂きながら大会運営が出来る方向で検討して行きたいと思っております。会員の皆様にはなお一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

家族応援団6名を含めて36名の多勢の参加となった。8月15日17時成田発トロント経由22時間機上 同日19時着予定の処を荷物到着せず真夜中近くの23時過ぎモントリオールホテル着。

今年も元気で道衣を着、良い汗とビールでマスターズ柔道を楽しみましょう！

16日は形の登録を会場のモントリオールオリムピックススタジアムにて済ませ モントリオール市内観光へ。セントローレンス河の高い岩の上に築かれた城壁都市は世界遺産に登録され カナダではトロントに次ぐ第2の都市で フランス語を公用語とする多民族都市。ノートルダム寺院 王の山と呼ばれるサン・ロワイヤル公園やオールドタウン等歴史的旧蹟が残る旧市街と近代的な建物が並ぶダウンタウンと新旧共存の街を観光して満喫。

ダ)主催大会にTOBが今まで開催してきた世界マスターズ柔道協会WMJA(本部カナダ)主催大会にTOBをかけて今大会が最後の大会となるので 出発がお盆の中日の飛行機代金が最高値となったにも拘らず更にカナダでの大会は今回4回目(99年第1回ウエランド 00年第2回ノヴァスコシア 09年第7回トロント)だったにも拘らず 出場者29名 これに

大会への参加者は ヨーロッパではヨーロッパマスターズ大会が南北米大陸ではパンアメリカン大会が既にそれぞれスタートしており 400人位と従来の大会と比しやや寂しかったのは否めない。これら背景に我が日本マスターズの形並びに試合の戦績は別掲の通りで当然のことながら目覚ましい。(12年前の第1回大会ではアメリカ在住宮崎剛先輩より世界マスターズと云

う大会があるから参加してみたい」と紹介されて、日本からの出場は丸の内倶楽部を中心に編成。当時の同倶楽部の水野留次郎会長を団長に小生副団長として選手11名応援団16名で参加したが、その時は形で出場したのは、椎木宗道・大上敏幸組の柔の形一組のみで、現在の形の隆盛(今回出場は13組延26名)で、正に今昔の感あり。

大会会場では、12回目とあって年輩柔道愛好家同志、再会を喜び古き友情を暖め合い、且つ新しきめぐり合いありで実に嬉しい限り。

更に毎回の事ながら前駐デンマーク国大使、現イラク支援特別大使、小川郷太郎閣下のご紹介により、モントリオール総領事館に角田崇成首席領事を表敬訪問し、「ご当地モントリオール諸事情をご説明して戴き、又氣候風土、治安や住み心地、移民民族とその言語のこと等々質疑応答、種々吸収し、総領事館前で記念撮影。尚大会には総領事館HPにて在留邦人へPRして頂き、館員の方々始め応援に駆けつけて下さったことを付け加えます。

総領事館表敬訪問の後、中村浩之中大OB、第1回ウエランド

大会 第7回トロント大会及び第12回大会ではそれぞれ試合の部で審判長を務められた。)が師範を務めておられる志道館中村道場(交歓稽古訪問。この中村道場には柔道愛好家グループと、00年シドニーオリンピック大会で井上康生選手に決勝で敗れ銀メダルとなつて昨年は井上選手が友情の訪問をしたという選手が筆頭コーチを務め、近く日本での世界選手権カナダ代表15名位で、猛強化中の男女ナショナルチームとの2グループがあり、我が方の草の根交流は、前者グループと先ず世界マスターズで金メダル等上位入賞した組による形の模範演武の披露の後、交歓稽古。そして終つては道場に隣接する中庭レストランにて中村道場の即席料理名人によるバーベキューパーティ、勿論カナダのどこまでも澄んだ夕空、夜空の下での交歓(柔道談義に始まり得意技一歌謡踊り)会は夜の更けるまで続いた。

再び 太陽輝く我が懐かしきケンタッキーへ

第2回日本マスターズブルーグラス形クリニック講習会

昨年の第11回アトランタ大会の帰途、第1回形クリニックが

好評であつたので、第2回を開催して欲しいとのトニー・イチロー(彼は20年前青森三沢基地駐在中の親友佐藤一郎氏の名前を自分に付けている)の要請を受けて今回は森本唯行、野口宏水、杉原尚、栗本忠弘、鬼柳一宇、同繁子夫人、勝呂孝内藤光伸の8名が参加した。ロバート・バージケンタッキー大柔道部コーチ(心理学準教授)の大学道場には、本場講道館柔道のマスターズによる2回目のクリニックとあつて、ケンタッキー州柔道連盟チーフザム会長始め遠くフロリダよりDennis US JFマスターズ委員長や南・北カロライナ両州、テネシー等の近



郊諸州より多数の参加者を加えて熱心なクリニックとなつた。先ず時間の関係で、形の模範演武は、野口・栗本組の五の形と杉原・勝呂組の極の形の2つ形クリニックは杉原・勝呂組により、講道館護身術の逐次解説と練習。おそらくこのような技の練習は彼らにとつては始めての体験らしく、全員熱心に聴き身につけようとする様子が実に良く見て取れた。小憩の後、各マスターズによる実践的な技の教授がまたまた大好評であつた。誰もが終わった後は、一皮むけたというか会得したというか非常に明るい印象を受けた。それはそうである、皆昨日或いは1昨日に第12回世界マスターズ大会に実際に出場して戦つてメダルを獲得したばかりであるので、当然だろう。小兵ながらも柔の理に叶つた鬼柳ゴルド・メダリストの背負い投げと大内と小内の連絡技、次いでがつちりした体格に眼光鋭く良く通る大阪弁が勢いよくほとばしる栗本8段ゴルド・メダリストの手首を上手く使うことによる大内刈、また森本チームドクターによる柔道の要諦、即ち「危ない所に行かぬ、襲われたら逃げる、絶体絶命の時始めて習った技を使う」を前提に、体

さばきと関節技等々永年外国在住の内藤通詞の解説は並みいる柔道志向の徒を説得するに十分でした。



終つては柔道学究の徒には再会を約し、有志一同による歓迎会とお土産交歓会。小生は新道場設立予定のトニー・イチローに岩崎安孝講道館参与にお願いして、嘉納師範の「精力善用」の額を装丁新道場にと贈呈。またトニーには栗本JMJ A副会長よりシンボルマーク入り柔道着をまた今回腰痛のため残念ながら急遽ケンタッキー行を断念された赤門柔道倶楽部山本健夫さんよりは講道館の形の英語版DVDをロバート宛贈呈した。これに対してケンタッキーカーネルのトニー・イチローは州政府に働きかけてケンタッキー州並びに州民の向上に貢献した人に贈られる「ケンタッキーカーネル」の名誉称号の証書を授与してくれたのには大変有り難く思うものである。柔道のお

陰であるし 先祖家族師友のお陰でもある。

第7回日本マスターズ柔道兼第1回アジアグランドマスターズオープン新潟・長岡大会

本年は新潟県柔道連盟(会長五十嵐寛司様)長岡市柔道会(会長 浅野栄 一様)主管の下 “生涯柔道を通して互いの健康と長寿の交歓”を合言葉に 特別に本年はIJF認可第1回アジアグランドマスターズオープン柔道大会として 日本選手430人 外国人選手40人(NZ アルゼンチン モンゴル 韓国 カザフスタン USA ベルギー UK)参加して盛大に開催しました。

初日は開会式(宣誓は横山悦子選手代表)に次いで競技は形と年代別男(M1-M7)女(F1-全区分)・体重別試合。昨年の国体運営を見事乗り切つての新潟県柔道連盟挙げての大会運営は翌日の男子個人戦M8-M12へと更に男女無差別そして男女団体戦へと遅滞なく見事にスムーズに終了。特に形では形選手権の各地区代表も多く 更に試合の部ではマスターズ大会らしく「お父さん！頑張つて！！」に交じって「おじいちゃん！頑張つて！！」のお孫さんの大きな声援がおじ

いちゃんを最後まで奮い立たせて微笑ましかつた。そしてこのおじいちゃん お父さん 更におばあちゃん お母さんのタタミの上での雄姿と日常の起居動作や後姿を見て 多くの子供たちがいづれ自分もおじいちゃんおばあちゃん お父さん お母さんのようになって柔道を続け 良い子 良い孫を育てていくとくれ、ば 我々はあの世とやらで感激感涙にムセンでいることであろう。

今後の展望

上記のように世界マスターズ大会は12回を以て終了し 昨年より第1回ドイツ 本年第2回ハンガリーというように IJF主催大会がとって替わることになつた。従来の世界マスターズ大会は参加者中心で 自分の時間とお金を使つて参加して来たが 昨年よりのIJF主催大会には 今までのいわば自分自身を代表して参加する組へと国または地域を代表或いは選抜されて参加する組とが同じ土俵で相見えることとなり 年代別に行われる試合はともかく 年代の別なく行われる形の部では自主費参加組と選抜官費参加組との差は歴然としており もしこれからも同じようであれば

躊躇せざるを得ない。マスターズ大会は飽くまで自主参加の大会であるので自分で参加を決めるのは理の当然。更に本年の大会では当初柔道着についてIJFの指定する4社以外の柔道着の着用は認めないこと(これは後で改訂された)であつたし またホテルも指定され料金も決められて 特に地元ヨーロッパの参加者には不評であつたと聞く。いづれにしても我々日本マスターズは 世界に拡散した日本発唯一とも云える誇り 高き文化 柔道を学び国境人種 宗教 言語等々を超えて見知らぬ国や地域の歴史 遺産 文化等々に触れ 異国の入々と交わり “生涯柔道を通しての草の根外交”を楽しむために参加しているのである。事情の許す限り参加したいのは勿論であるが・・・。

日本マスターズ訪問団を迎えて

大宮 民子

(愛知県瀬戸市柔道会会長)

愛知県瀬戸市体育施設の武道

館に22年2月6日(土)日本マスターズ柔道協会の関東方面の先生方23名による道場訪問がありました。

高山、中津川、春日井の中部地区のマスターズ会員の先生方からも応援に駆けつけてくださいました。

予定の時刻に大型バス一台が瀬戸武道館に到着、風格ある先生方が続々と降りられる姿は子供達にとつて驚きの迫力であつたようです。

先生方の自己紹介で出身地と年齢を語られると子供達は歓喜の声をあげておりました。最高齢83歳、8段、4段の諸先生方には子供達、中学、高校生は曾孫、孫に当たります。

愛知県の片隅に位置する瀬戸は山々に囲まれた瀬戸物の産地です。そのような町に住む子供達にとつて、東京といえればドイツ・ランドを思い描き、栃木、茨城は外国のようなイメージ、個人道場と聞けば、大きな家屋敷のお武家様だったのではないのでしょうか。

稽古はマスターズの先生方の指導の下で、中、高生、一般、瀬戸柔道会の指導員を対象に、

準備体操に始まり、技の説明、崩し、掛け、受身の重要性、掛かり稽古、形、等々武道としての柔道を体験しました。

先生方の係り稽古、形、受身の迫力におもわず拍手をしている子供達の真剣な眼差しは、子供達の祖父母、ご両親、そして、瀬戸柔道会の指導員の心に爽やかな感動が宿りました。季節一番の寒い日にも拘わらず皆汗びつしりでした。

子供達は

「先生！おじいちゃんがいつぱいバスから降りている！」

「僕のおじいちゃんより歳が大きい。」

「掛かり稽古で僕は先生を投げたよ、すごい大きな音がした受身だったよ。」

「受身が上手、と褒められたよ。」

と興奮気味に伝えていました。初心者には基本を指導され、受身も気軽にとつてくださり、黒帯はポンポン投げられ皆良い経験になったと思います。

我々指導者も、マスターズの先生方の鍛えられた技、身体、柔道が大好きという姿勢、そして武道精神に教えられるものがありました。



諸先生方からは、瀬戸柔道会の子供達の純粋さ、返事と礼儀作法が良かったこと、受身をしっかりと体得している事などを褒めていただき指導員一同嬉しく思いました。

現在、瀬戸柔道会の会員は130名、子供達は今日も元気に稽古にやっけます。

日本マスターズ大会は、関係者の皆様の御尽力により参加者も年々多くなり今年は7回目でした。

柔道が大好きな人が集まり、今も現役、これから現役、大会で知り合えた仲間と再会を喜び、形と試合に挑み、美酒に酔いしれ(私は飲めませんが、) 、

形を語り、試合を語り、肩をたたきあい、次回のマスターズでの再会を約束し郷里に帰る。

開会式には再会の喜び、閉会式のときは哀愁が漂う大会でもあります。

年々我々は古参の域に押し上げられて、三十歳以上の柔道家が「自分の柔道」を持つてやってきます。稽古、練習風景は自身を奮い立たせてくれます。

私もマスターズ第一回から参加させていただき、形と第一回目の団体戦にエントリーし、岐阜、愛知、秋田の仲間で(合計163歳)過去のオリンピック選手からなるチーム(百歳前後)とリーグ戦を行いました。さすがに彼女らは我々は大先輩なので巻き込むことなく上手に投げてくださいました。しかし、我々も日々子供たちと稽古しているの

で身体が反応し一本にはなりません。続く押さえ込み25秒をもがき苦しむ羽目になりました。三敗惨敗でしたが、楽しい思い出です。仲間の体調がよければ復活したいと思います。(そうなれば、多分180歳前後でしょうね。)

マスターズの仲間は遠き北海道、沖縄まで男女ともに知り得ま

した。

私は平成18年に世界マスターズ(フランス大会)へ、金沢、福井、秋田、岐阜、長野、愛知の仲間とそれぞれ各種目に参加しました。

私のマスターズ大会での形のお相手はいつも県を越えた仲間との参加でした。

私は地域では女子柔道のパイオニア的存在でもあり、次なる選手を送り出す立場だと退いておりました。

そんな折、今年の全日本形競技大会には地区枠の他、全国枠という新たな選手枠が設けられました。

新たな全国枠を覗いてみたい、と私の柔道魂が燃りました。

さて、お相手?稽古?戸惑う私に、40年来の柔道の仲間が背中を押してくれました。

埼玉の同朋と全国枠の審査に挑み、私は、相手の技量に支えられ全国枠を手に入れることができました。

全日本形競技大会では各種目、各地区枠10組の他、全国枠は柔の形一組、投の形一組、古式の形二組、の四組でした。マスターズ大会でお会いする先生方でした。

しかも、全国枠四組は好成績を収められたことは本当に嬉し

く思います。

マスターズで知り得た先生方、友達、仲間には、これからも私の柔道人生、お世話になりながら生涯柔道を実践していきたいと思っています。



日本代表全種目金メダル(横山悦子選手)

第2回IJF世界形選手権大会

(ハンガリー・ブタペスト)
オープン参加

5月25日・26日
講道館護身術

取 内藤 純

受 西久保 博信

■予選リーグ26組中17位

柔の形

取 内藤 純

受 杉原 尚

■予選リーグ26組中18位

固の形

取 中島 忠

受 杉原 尚

■予選リーグ32組中27位

第2回IJF世界グランドマスターズ選手権大会

(ハンガリー・ブタペスト)
成績

【個人戦】

5月27日

M10 60kg級 岡田庫二郎 3位

M9 60kg級 鬼柳 一宇 優勝

M9 60kg級 杉原 尚 2位

M9 66kg級 中島 忠 2位

M9 73kg級 内藤 純 3位

M8 73kg級 内藤 光伸 7位

M8 73kg級 西久保 博信 7位

M7 73kg級 久宮 登三夫 優勝

M7 81kg級 吉成 隆杜 3位

M6 90kg級 大塚 俊彦 3位

5月28日

M3 73kg級 宮本 功三 3位

M3 81kg級 高野 賢司 初戦敗退

M1 66kg級 中村 年秀 優勝

M1 73kg級 小室 宏二 優勝

5月29日

M2 81kg級 相原 友和 初戦敗退



【団体戦】60歳以上3人戦
先鋒 73 kg 中堅 90 kg以下 大将無差別
銀メダル

【団体戦】

先鋒 -73 kg 内藤 純

西久保博信

中堅 -90 kg 久宮登三夫

大将 無差別 吉成 隆社

柔道には人生が。

形にはドラマが。

横山 悦子

(福井県)

平成二十三年。明けましておめでとうございます。

本年も、マスターズ精神で、柔道を、エンジョイして行きたいと思います。

宜しくお願い申し上げます。早速ですが柔道を続けていると、普通では味わえない、楽しい事、

悲しい事、腹の立つ事等、有りますよ。今回は、私事で恐縮ではありますが、一行書いて、ページを埋めさせて頂きます。

まず、柔道(形)を続けて来て、良かったと思っています。なぜなら、好きな形を通して、外国まで行き、試合という発表の場を組織がお膳立てしてくれ、それに伴って、友人・知人が国は違っても、志は同じなので、すぐに打ち解け、真摯に向き合う事が出来ます。文化や生活環境の異なる人々と、柔道(形)で話し合う事が出来るなんてと、今さらながら感心している次第です。

ところで、私は、試合の前に、楽しい事を体験する事があります。それは2007年、第一回講道館柔道形国際競技大会に出場する2週間程前の事です。私は試合に備えて、相方(受)の大森千草さんの自宅道場(素心館)へ通います。彼女の道場は、長野県の諏訪湖の堤防のスグ横



に有ります。歩いて、二分くらいで湖面に着く近さです。そして、湖の向側の山の間からは、偶に富士山も拝める、とても見晴らしの良い所です。そこでの稽古は、二人にとつて、とても有意義なものとなります。それは、各自で稽古してきた技を、お互いに研究し合い、一つの完成品に近づける為集中すべき時なのです。そんな中で、早朝の散歩で湖に向った時、緑の草むらから、何かが私を引き止めるようにするパワーを感じました。

フト、足元を見ると、ナント、四ツ葉のクローバーが、朝露に光っているではありませんか。まるで私に、摘み取られるのを待っているかの様に、彼女の方から私に微えみかけてくれたのです。自慢ではありませんが、私は超近眼でとても、足元の物は見えません。ちなみに試合場内の畳の枚数も見えないので、いつも勘で計っています。その、四ツ葉のクローバーが「私を試合に連れて行ってください。必ずラッキーなことがありますよ。」と呼びかけている様でした。ヤッホー。戴きます。ありがとうネ。と、サツサとティッシュに包んで持ち帰りました。そこでは二枚(本)見つけたので、大森さんにも分けてあげました。そして、試合

結果は、無事優勝！実は、日本初の国際試合なので、優勝が義務付けられていたので、ホッとしました。四ツ葉。パワーかな？

二回目は、昨年の全日本形競技大会の時でした。今回も一週間前に大森さん宅の素心館で稽古をしました。この日も早朝散歩で、湖へ向う途中でした。又又、私を呼び止めるような気がして、足元を見ると、ナント、三枚(本)もの四ツ葉のクローバーが有るではありませんか「スゴイ。」と思いつながら、探せばまだ有るかも知れませんが、欲を言わず、それだけを摘み、勿論一枚(本)は大森さんにプレゼントしました。試合当日、二人で講道館大道場へ持参した結果、優勝することが出来ました。四ツ葉の幸せパワーに助けられた気がします。ラッキーな気持ちと確かな自信を持たせてくれたと感謝しています。全日本の試合は、私にとっては九年振り、大森さんとのペアでは、十三年振りの出場でした。やはり、この大会は、私にとつては、適度な緊張と、演技を魅せたい、という気持ちを振立立たせてくれる素晴らしい重厚な大会だと実感しました。常々思うのは、柔道の修行を通して我慢と協調と進歩することを覚

えました。この事を人生の糧として、生涯柔道を沢山の人々に広めたいと思っています。辛いことも楽しいことも柔道人で謳歌していきたいですね。本年も、又、試合上でお会いしましょう。宜しくお願い申し上げます。

世界形選手権大会・世界グランド・マスターズ 柔道大会
(ハンガリー・ブダペスト)
参戦記

西久保 博信

(神奈川県)

第2回世界形選手権大会(5/25

〜26)

第3回世界グランドマスターズ柔道大会(5/27〜30)

日本マスターズ柔道協会は正月

早々ハンガリー・ブダペストにツアーを組んで乗り込む計画だった。二つの問題が生じた、一つは今年12回目を数える「世界マスターズ柔道協会(本部カナダ)」主催の「形コンテスト」で金・銀メダルを多数獲得してきた選手の平均年齢がほぼ70歳近く、各国の国内選抜大会等で優勝、国を代表して出場する選手は30歳代、40歳代が中心で迫力・スピードのハンデはいかんと



もしがたく、「世界形選手権大会」に60歳以下、60歳以上の年齢別制を設けて貰いたいとの提案をする。もう一つはグランドマスターズ柔道大会に出場する選手が着用する白・青の柔道着にメーカー指定がでたことである。国際大会だけに青の柔道着購入は仕方がないとして、柔道の本家日本だけに、白い柔道着はそれぞれゆかりのメーカーのものを2〜3着もつてはいるが、指定された国内一社の柔道着となれば新しく購入一となり2着で10万円の出費となる。(後日この問題は4月に入ってから今年度の大会のみ、という条件付きでメーカー指定が解除された以上二つの問題提起を、全日本柔道連盟を経由して行った日本マスターズ柔道協会は

3月下旬、ツアーを組んでのブタペスト行きを断念。出場を希望する会員のフリー参加となった。

選手10名(平均年齢67.3歳) 応援団(奥様2名)

フリー参加の選手10名のうち最高齢は神戸の岡田庫二郎八段76歳

最年少は埼玉の大塚俊彦六段55歳、せっかくブタペストまで行くのだから「世界形選手権」にもチャレンジと、茨城の杉原

尚六段74歳と埼玉の中島忠

四段70歳が「固めの形」杉原尚六段と栃木の内藤純七段

69歳が「柔の形」内藤純七段と神奈川の西久保博信七段67歳が「講道館護身術」にオープン出場することになり、出発前に2回講道館で特訓した。

5/23(日)成田発9:35分

ルフトハンザ・ドイツ航空711便は所要11時間40分

14:15分フランクフルト空港着、2時間40分のトランジット(乗り継ぎ)を経て

フランクフルト発16:55、所要1時間30分

でブタペスト着18:25、時差18時間を含め丸一日(24日)の長旅は白夜だった。

5/24(月)形選手権登録手続き、ブタペスト市内半日観光。

ホテル出発8時50分、タクシーで大会会場へ、形選手権出場登



録手続きに、会場で日本選手団と出会う、投げ、固め、柔、極め、護身術、どの組も優勝を義務付けられている緊張感が漂う、松下三郎九段松井勲八段、コーチの小志田先生も。国際部蒲原さんのお陰でスムーズに登録手続きが済んだ。市内ブダペストを観光、アジアの遊牧民「ラン族」が東欧に侵入、そのまま土着してハンガリー、変じてハンガリー。程度の知識であったがガイドの「GALL」さんとの会話でハンガリーと日本語の類似点①シオ(塩)―ショー(ハンガリー)②良い―リョー(ハンガリー)③チチ(乳)―チチ(ハンガリー)この頃は混血が進んで、あまり見られなくなったが赤ん坊のおしりにモンゴル斑が見られたとのこと。昼食はドナウ河に停泊した船(ホテルになつてゐるレストランでヴィアベース、鶏肉入りサラダ、生ビール、赤ワイン2杯、この地域はビールもワインも実に旨い。

5/25(火)世界形選手権(投げの形・固めの形・柔の形)

オープン参加の固めの形、杉原・中島組は第二ゾーン11番

目の出場柔の形、内藤・杉原組も11番目、1ゾーン13組(ペア)で2ゾーン計32組中、各ゾーン

上位3チームが予選突破で決勝トーナメント進出だ。残念な

がらず選敗退となったが日の丸を胸に健闘、3つの形で優勝をきめた日本チームの引き立て役を演じた。

5/26(水)世界形選手権(極めの形・講道館護身術)

オープン参加、内藤・西久保組は第二ゾーン2番目の出場、ビデオカメラを手にした人が多数

集まる。組みつかれた場合の7本を無難に終え、離れた場合の二本目「顎突」腕を決められて投げられた際受け損ねて

左肩を強打！何食わぬ顔で演技を終了、26組中17位で演技を終えた。各国代

表の中で頑張ったという自覚はあるが、強打した肩にぶら下がった左手は肩より高くは上がらない状態だった。

5/27(木)個人戦(M5、M10、F10)

5/27(木)個人戦(M5、M10、F10)

5/27(木)個人戦(M5、M10、F10)

5/27(木)個人戦(M5、M10、F10)

5/27(木)個人戦(M5、M10、F10)

5/27(木)個人戦(M5、M10、F10)

体重区分表

女性	男性
48 kg未満	60 kg未満
48 kg以上 52 kg未満	60 kg以上 66 kg未満
52 kg以上 57 kg未満	66 kg以上 73 kg未満
57 kg以上 63 kg未満	73 kg以上 81 kg未満
63 kg以上 70 kg未満	81 kg以上 90 kg未満
70 kg以上 78 kg未満	90 kg以上 100 kg未満
78 kg以上	100 kg以上

年齢区分表

年齢区分	試合時間	女性コード	男性コード
30-34才	3分	F-1	M-1
35-39才	3分	F-2	M-2
40-45才	3分	F-3	M-3
45-49才	3分	F-4	M-4
50-54才	3分	F-5	M-5
55-59才	3分	F-6	M-6
60-64才	2分30秒	F-7	M-7
65-69才	2分30秒	F-8	M-8
70-74才	2分	F-9	M-9
75才以上	2分	F-10	M-10

①年齢区分、体重区分によって試合を行う、段別試合ではない。

②ゴールデンスコアのルールが適用される。60歳未満の年齢別カテゴリの試合は、ゴールデンスコアの時間は2分、60歳以上(F7、M7以上)のゴールデンスコアの時間はすべての試合について1分とする。

③エントリー1名 試合なし、も

しくはカテゴリーを統合する。
 エントリー2名 1試合行い、結果の良い選手が勝者となる、結果が1対1の場合は、3試合目を行う。もしくはカテゴリーを統合する。

④エントリー4名 4選手の総当たり戦、エントリー5名 5選手の総当たり戦

エントリー6名 3選手ずつ総当たり戦を行い、各上位2名が交差して準決勝を行う、エントリー7名、3選手と4選手に分かれて総当たり戦を行い、各上位2名が交差して準決勝を行う。

⑤エントリー8名以上 ダブルレペチャージ敗者復活戦ありのトーナメント方式で行う。

左肩の強打から「夜明け」、左手のみならず反対側の右手まで肩より上に上がらないという、最悪のコンディションで試合に臨んだ結果は

7位に終わった。前年アトランタ大会 M-8 73 kg 以下級で優勝しているだけに悔しさを通り越して、情けなかった、原因は自分にあったから、救いは団体戦まで3日間あることだった。

5/29 (金) ブタペスト市内半日観光
 5/28 (木) ドナウ河クルーズ日観光

光 団体戦登録手続き
 5/30 (日) 団体戦(60歳以上3人制、-73 kg・-90 kg・+90 kg)
 肩の状態は少し良くなっていたと思う。このまま帰れない。先鋒の-73 kgを内藤7段と交替で出場した、事実上の決勝戦ともいふべき

ロシア戦、先鋒の私が抑え込み22秒(25秒で一本)の技ありで先行したが場外際で逆転の裏投げ(サンボ技)喰って敗退、中堅、大将も負けて0対3で金メダルならず。銀メダル、最後まで足を引つ張ってしまった。経験という貴重な財産だけは失うまい!

第12回世界マスターズ

柔道大会 (カナダ モントリオール)

成績

【形選手権大会成績】

投の形

4位 取 石川 厚二
 受 小川 榮一郎

固の形

4位 取 石川 厚二
 受 永島 健次郎

古式の形

優勝 取 清水 正敬

2位 取 清家 春夫
 受 大矢 秀昭
 受 毛利 修

柔の形

3位 取 清家 春夫
 受 安河内 浩
 5位 取 大矢 秀昭
 受 杉原 尚

護身術

3位 取 三橋 英夫
 受 西久保 博信
 7位 取 安河内 浩
 受 永島 健次郎

極の形

5位 取 勝呂 孝
 受 杉原 尚

五の形

2位 取 毛利 修
 受 清家 春夫
 3位 取 安河内 浩
 受 杉原 尚

4位

取 西久保 博信
 受 三橋 英夫
 6位 取 野口 宏水
 受 栗本 忠弘

3位

取 西久保 博信
 受 三橋 英夫
 6位 取 野口 宏水
 受 栗本 忠弘

2位

取 毛利 修
 受 清家 春夫
 3位 取 安河内 浩
 受 杉原 尚

1位

取 西久保 博信
 受 三橋 英夫
 6位 取 野口 宏水
 受 栗本 忠弘

【個人戦試合成績】

M11 -90 kg 優勝 太田 尚充
 M11 -66 kg 優勝 大矢 秀昭
 M10 -90 kg 優勝 森本 唯行
 M10 -81 kg 優勝 野口 宏水
 M10 -73 kg 優勝 高橋 勘十
 M10 -73 kg 優勝 安河内 浩
 M10 -60 kg 優勝 岡田 庫二郎

M10 -60 kg 優勝 岡田 庫二郎
 M10 -73 kg 優勝 安河内 浩
 M10 -73 kg 優勝 高橋 勘十
 M10 -81 kg 優勝 野口 宏水
 M10 -90 kg 優勝 森本 唯行
 M11 -66 kg 優勝 大矢 秀昭
 M11 -90 kg 優勝 太田 尚充

世界マスターズ柔道大会

初挑戦

山田 次光
 (大分県)

今回が、初の世界マスターズへの待ちに待った挑戦となりました。私にとつての「柔道」とは人生をより味わい、深いものに変えてくれるスパイスのようなもので、甘くて、ほろ苦い、いろいろな味を醸しだしてくれました。

世界初挑戦の今回は、どんな味が体験できるのか、不安と期待の入り混じるものでした。今回に限らず、基礎体力の維持のためのトレーニングだけは続けてきていました。特に、今年は例年になく早めにスイツチオン。高校生相手の実戦練習等で自分自身を熱中症寸前まで追い





込んできたという自信もありました。成田空港での結団式では、「負けたらナイアガラの滝に飛び込む」という決意表明をしたものの、妻の「飛び込んでも助けに行かない」というつぶやきや、若干の体重オーバーもあり複雑な気持ちで日本を後にしました。

大会当日、ドイツとアメリカの選手3人でのリーグ戦となりました。いずれも一本勝ちをすることができましたが、外国人特有の体幹の強さや腕力、背筋力は思っていた以上に強く、もう一度対戦したら同じように勝つことができたか自信はありません。世界の表彰台の一番上は格別の味でした。勝つことにはこだわって参加した世界大会でしたが、対戦後に、共に闘った相手選手とお互いの「柔道人生」について語り合ったり、その後の

近況など交換し合う仲にもなりました。

今回最高齢の太田先生を始め、寸暇を惜しんで柔道談義をされる先生等、素晴らしい諸先輩方に出会うことができ、同じ価値観を共有できたことは自分の「柔道人生」に濃くて深い味を与えて頂き、感謝する次第です。又、モントリオールでむかえてくれた雄大な自然、ナイアガラの壮大な景色、初めて訪れたワイナリーや教会などを見る事が出来、今回のマスターズに参加したからこそと思います。

今まで、「柔道」を通じて沢山の人の出迎え、苦しい練習をし、勝つて泣き、負けて泣き、喜び、悲しみ、いろいろな感情を味わった若いころのようではありませんが、その頃に負けたくないくらいの出会いと感動を味わうことができました。

これからも生涯「柔道」を通じて、お互いの健康と長寿を願い、夢と感動の舞台でお互いの交流を深め、新たな気持ちで取り組む覚悟です。これからも、マスターズ柔道が益々発展しますように、祈念申し上げます。

父を追いかけて

宮本 功三

(東京都)

私がマスターズ大会の存在を知ったのは、平成十五年に講道館で開催された第五回世界マスターズ大会で、父が優勝した一報を受けた時である。しかも無差別級での優勝ということ、驚きと喜び・感動が混在していたことを記憶している。更に翌年の平成十六年には、第一回の日本マスターズが静岡県で開催され、今度は体重別の方で優勝した一報を受け、父の柔道に対する精神に敬服した。引き続き父は世界・日本の大会に出場し続け、タイトルを持ち帰って来ることに、気付いたら私も父に感化され、私も出場して「父の気持ちを少しでも共感したい！」そして「父と兄と一緒に出場したい！」この二つの夢を抱き出場する機会を窺っていた。

一つ目の機会が平成二十年に



訪れた。秋田県で開催された第五回大会である。

高段者大会と違い、トーナメントおよび延長戦は久々の経験であったので正直きつかったが、父と同じメダルを頂くことが出来た。翌年も何とか勝つことができ、僅かではあるが父に近づくことが出来た。

次は世界である。仕事の都合上、なかなかチャンスが無かったが、平成二十二年にやっと機会が巡ってきた。五月にハンガリーで開催された「司」主催の世界大会である。

体調万全で試合に挑んだが悔しいことに三位に終わった。帰国し周囲は称賛して頂いたが蟠りが取れず、八月にカナダで開催されたWMA主催の世界大会に挑戦した。WMA主催の大会は、この十二回大会をもって終了という事もあり、背水の陣で挑んだ。そして、父の共感をもとに、体重別と無茶を承知で無差別級にも挑戦した。

結果は何かと念願成就する事ができ、一つ目の夢を果たすことが出来た。

二つ目の夢は平成二十二年新潟県で開催された第七回大会で訪れたが、残念な事に父の欠場により、あと一歩のところまで実現できなかった。

次回は、父には少しでも怪我を良くしてもらい、体力の維持に努め、二つ目の夢の実現に向け精進したいと思う。

父そして父を知る先輩方からすれば私の夢や考えなど未熟だと思われるし、私自身も十分理解している。しかし、柔道の師匠でもある父の歩んできた道を少しでも共感したくて、遥か彼方にある大きい父の背中を追いかけている。

最後に、このマスターズ大会に参加したことにより、素晴らしい人との交歓を経験した。また先輩方の柔道に対する熱意に敬服し、自分の柔道に対する甘さを痛感した。まだまだ挙げればたくさんあるが、この様な貴重な経験ができる大会を創設して頂いた先生方のご尽力には心から感謝である。

日本マスターズ柔道大会、世界マスターズ柔道選手権大会出場について

喜田 康之
(大阪府)

私は第3回岡山大会より日本マスターズ柔道大会に5回連続し出場させていただいております。当大会に出場する事を目標に自分なりに鍛錬しています。当会に出会った事で私の人生が素晴らしいものに大きく変わりました。当大会設立にご尽力いただきました方々、私に「面白い大会があるよ」と教えていただいた先生に心より感謝致します。本当にありがとうございます。

当大会への参加年数を重ねてきますとマスターズの世界大会がある事を誰からとも無く耳にするようになり、興味がわきました。柔道経験者なら誰もが一度は、国際大会に参加する事を夢見ます。そして、もしも国際大会で国旗が掲揚されたら、君が代の演奏が流れたら・・・と永久に叶う事のないと思いつつも自分が表彰台に立った姿を夢見ると思っています。その夢が今年正夢となりました。今でもこの夢は覚めるのでは無いかと時々怖くなります。



その最高の思い出となりました。世界マスターズ柔道選手権大会の感想を今から書かせていただきます。

第12回大会はカナダのモントリオールで開催されました。モンティピックです。柔道をしている者なら、上村春樹講道館長の無差別級優勝を始め二宮和弘先生、園田勇先生が見事金メダルを勝ち取った聖地である事は知らない者はありません。

国内予選を経ずに参加できる大会ではありませんが、大会を観戦するうちに、日本選手としての責任感に押しつぶされそうになりました。自分よりも強い選手が日本国内にはたくさんいます。

すよと説明したい気持ちになりましたが、世界大会に出場する道を選んだ私は日本柔道の代表の覚悟が出来ていて当然です。現地に到着した時、安易な気持ちで参加してしまった事を後悔し、その日から日本代表にふさわしい人間になるよう務めました。心技体全てにおいてさすが日本柔道と世界の人々に思われるようになると務めました。

大会当日は無我夢中で一戦一戦戦い、何とか優勝する事が出来ました。優勝した後、数え切れない世界中の選手、観客に「ミスターキタ、おめでとう」と日本語、英語、母国語で祝福していただきました。中には「日本の本物の技を見た」等日本柔道を称えた言葉、「あなたの巴投げ」等技を称えた言葉を多数いただきました感無量となりました。私は他の国の選手の名前、決まり技まで覚える事はそれまで殆どありませんでした。多くの選手、観客が他国の選手を手取るように説明する姿を目にし、心から柔道を愛している姿に気が、感動しました。その後落ち着いて、周囲を観察していますと、全ての選手に同じように接している事も分かりました。そ

れまでは、私は日本選手を応援するばかりでしたが、その後、同時に本当に良いものを見ようと務めるようになりました。日本の「柔道」から世界の「JUDO」となった今、世界の人々の目が大変厳しくなっており「良いもの」「本物」を真剣に追求していると感じました。良いものは国籍関係なく褒め称え、良くないことはたとえ日本の柔道であろうと厳しく批判するという強い意志のようなものを感じました。

今大会を終え、大変生意気ですが、日本を代表し戦っている強化選手の苦労が少し分かったように思います。日本で生まれた「柔道」、世界に普及した「JUDO」は大変崇高なものです。「心技体」全てを鍛え、有効に活用し、数分間で勝負を決するという柔道は明らかに「スポーツ」とは異なり厳しいものです。その厳しさ、素晴らしさに世界の「JUDOKA」は分かっていると思います。国際大会に出場する日本選手には、勝負を超越した風格を感じさせる日本柔道家である事を期待しています。堂々と正しい柔道をした結果、負けても良いと思いますが、やはり優勝して欲しいと高い期待してしまいます。

マスターズ選手が若い選手と同じ気持ちで一人ひとりが頑張っている事が若い選手の力を増す事にもつながると思います。

国際大会に出場する機会は今の私にはありませんが、今回貴重な経験をさせていただきました者の責任と義務として、今後国際大会に出場する機会があれば積極的に参加したいと考えます。その際、さすが「日本柔道」と思われる試合ができるように日々「心技体」を鍛錬し続けます。

世界マスターズ柔道「銀」

平井 敏雄

(兵庫県 理事)

モントリオール空港に到着したのは深夜0時をまわっていた。飛行機が5時間遅れたため。成田でトロントから乗り継ぎ便の変更、ホテルへ遅延の連絡は済ましたが、空港からホテル間の深夜移動は決めていなかった。誰もいない到着ロビーを歩くとダウンタウン行きのBUSがまだあった。とにかく街まで行つてタクシーを拾おう。一時間後ターミナルに着くと、空き缶を手にしたあやしい人たちがいた。こういう場合、英語より関西弁で追っ払ったほうがよく通じる。ホテルに無事着いたのは2時で、もうこの日には検量。明日試合で、次の日帰国。とにかく寝ましよう。

検量のため会場に行く。登録



を済ませ、体重もパスした。でも、まだ誰にも会っていない、うろろし、やつとお会いしたのは、神奈川の三橋英夫先生、姫路大会の団体戦でお手合わせして以来、ご厚意にして頂いている。ひと安心。

次の試合当日の朝、次々と大先輩方と、お会いできた。『おう、来とったんか。』

と大阪の栗本忠弘先生。先生は何処でお会いしても梅田でばったり会つたように話をされる。しかし、私には緊張と不安を吹き飛ばしてくれる呪文のように聞こえる。

兵庫県のマスコットはぼたんのTシャツに、前日獲得された金メダルをぶら下げて『お前も取つてこい。』

と神奈川の森本唯行先生。

おふたりに闘魂を注入して頂いて試合にのぞんだ。

予選リーグを突破し、

決勝トーナメントへ、準

決でロシアの選手に勝

ち、いよいよ決勝戦。

相手はブラジルのオオ

ムラ選手、変則スタイ

ルから寝技に引き込ま

れる。バックから絞めの

フエイント、腕ひしぎ、

術中に陥った。絶対タ

ップはしないぞ!と思う前に鈍い音、ツブサレタ。

M5、73級銀メダルに終る。

悔しさよりも、痛みよりも、完敗だった事にはなればれた。

強い親父がいるもんだ、それが嬉しい。次に向けての課題が見

つかり、克服できれば勝利がみえてくる、努力を続ける限り人は進化するのだ。

誌面をお借りして、高段者憩いの家『おかだ』でご指導頂いたマスターズの先輩先生方、無言で

体に柔道の真髄を叩き込んでくださる大矢八平先生、いつも厳しく愛情をもつてご指導頂く

山本昭先生、出稽古先の恵柔館道場生の皆様、坂井路雄館

長、本当にありがとうございます。

私にとっての柔道
(日本文化としての柔道を求めて)

石川 厚二
(東京都)

健康のための柔道

昨年、40数年ぶりに柔道を再開してから1年半が過ぎた。その間、たいした怪我も無く続けてこられたこと、周囲の皆様

感謝している。

70歳を目前にしての柔道再開の動機を正直に言えば「糖尿病対策」である。仕事を終えて、これからは健康第一で活かしたいと考えた。学生時代柔道をやっていたときには、自分が糖尿病になるとは想像したことも無い。

道場にいる間、投げられて受身を取るが多かった自分

を思い出して、今からでも、受身をしっかりとやれば、インシュリンの出が良くなるのではないか?」科学的根拠は何にも無く、自分勝手にそう思い込んで、渋谷スポーツセンターの柔道クラブへ入れて頂いた。したがって、入会の際には、「皆様のお邪魔にならないよう、道場の隅で受身の稽古をさせて頂きますのでよろしくお願いします」とご挨拶申し上げた。

続けられる柔道

再開して数ヶ月経った頃、先輩から「形を教えてやるから一緒にやろう」と声をかけて頂き、

「固の形」のご指導を受けることになった。稽古時間の30分前に道場に入つて教えて頂く。もちろん稽古時間中に形の練習をやることもあり、時間後におさらいすることもあった。今になって考えてみると、これが続けてこられた大きな要因であつたと

思う。実際問題として、2時間の稽古時間中受身ばかりはやってられない。かといつて乱取りを続けるなんてとても無理。

「固の形」の稽古は、怪我の恐れも無く、運動量は決して少なくない。そして何よりもありがた

いのは、先輩と二人で稽古していると、大先輩の方々が声をかけてくださる。「石川さんそう

じゃないよ。こうやるんだ」とやつて見せてくださる。これが渋谷スポーツセンター柔道クラブの特長だと思う。

今年8月、モントリオールで開催された世界マスターズ柔道大会に参加した。人前でやるとうだけでも緊張する。ましてカナダまで出かけてゆくととなると、真剣にならざるを得ない。一生懸命稽古した。思いがけず「固の形・銅メダル」を受賞。初出場

でよくやったと言われてうれしかった。これも先輩・大先輩の方々のご指導のお陰である。

広がる柔道

今年の春、四谷の上智大学柔道部を指導している友人から声がかかった。「昇段試験を受ける学生達に形を教えてやつてくれ」と。正直のところ戸惑った。

「指導を受けている最中の自分が指導するなんて?」それでも



石川厚二

永島健次郎

日本文化としての柔道

「中・高校で柔道事故多発」の新聞報道があった(東京新聞 2010年11月18日)。2012年度に中学1、2年で武道が必修化されることを前提に、指導者が安全な指導法を学ぶ必要を指摘する内容である。柔道初心者の方が生方が、生徒達を指導するケースが多くなるだろう。これに、前向きに対処する十分な具体策が進められているのかが気にかかる。

渋谷スポーツセンター柔道クラブの特長は、子供たちの指導法にあると思う。幼稚園児・小学生を、いわゆる柔道教室ではなく、怪我せず遊ばせるようにしながら、柔道の楽しさを教えている。担当されているのは、ベテランの先生方だ。もちろん手の足りないときは、新米の私もお手伝いするが。

このように、身近に経験する幼児・児童の導入教育や留学生の指導方法の必要性、さらには大事な教育問題である中・高校生の武道必修化対応などを考えると、一つの方向が現代日本柔道に求められていると思う。

具体的には、勝敗を重視する「競技スポーツとしての柔道」とは別に、年齢・経験を問わず誰でも親しめる「日本文化として

の柔道」を「形」を有効利用して実現できれば良いかと考える。

最後に私にとつての柔道の原点である「糖尿病対策」の現状を報告する。今のところ主治医の判断によつても、明瞭な改善効果は見られない。しかし本人は諦めてはいない。もともと狙いは東洋医学的な効果、すなわち体質改善である。当然「生涯柔道による生涯治療」が目標になる。

第十二回世界マスターズ柔道大会参戦記

須永悌治

(千葉県)

第十二回世界マスターズ柔道大会にはじめて参加させていたできました。

本大会はカナダのモントリオールで八月十七日から開催され、世界各国から約五百名が参加し、日本からは三十名が参加しました。

八月十五日成田空港出発、途中、国際日付変更線を通して空路トロントへ。

ここで乗り継ぎの際、メンバーは三便に分乗のアクシデントに遭遇しましたが、とにかく全員無



73 kg以下
3位須永悌治 2位中島秋

事目的地モントリオールに到着することができました。

私の試合は八月十八日に開催され、M8クラス(六十五歳〜六十九歳・六十六kg〜七十三kg未満)にはエントリー七名でした。

予選リーグは四名で戦い、初戦は日本人同志の対戦でした。初参加の緊張と時差ボケの影響もあり、ゴールデンスコアの末、旗判定で勝ち、次は外国人に支釣込足で運よく一本勝ち。三人目の外国人には大内刈りで一本負け。その結果、二勝一敗で決勝リーグへ進出することができました。

決勝リーグでは、試合巧者の日本人と対戦、有効をとられて負けました。

結果、辛うじて三位に入賞することができました。

国内の高校生大会では、一日一試合が原則ですが、マスターズは四回戦うというハードな試合でした。また、国際ルールではじめての経験でしたので、よい勉強になりました。

八月十九日にはモントリオールの「志道館」で現地の柔道愛好者の皆さんと交流稽古を行い、また、清水正敬氏、清家春夫氏による古式の形などの演技を行うなど、柔道を通して草の根外交も展開することができました。

そして、モントリオール総領事館にも表敬訪問することができ、あらためて、生涯柔道を続けてよかったとつくづく思いました。

さらに、思い掛けず開催地モントリオール市内観光はじめ、中世ヨーロッパを感じさせるケベック・シティ、カナダ最大の街トロント、世界三大瀑布のひとつナイアガラの滝などカナダ観光もすることができました。

今回の世界マスターズ柔道大会を通して感銘を受けましたのは、太田尚充氏、大矢秀昭氏、高橋勘十氏をはじめ諸先輩が八十歳台にもかかわらず、若々しく形や試合に出場していることで

した。
まだまだ若輩の私にとって、生涯柔道という目標に向かって修行に精進していきたいと心に決めた大会でした。
清水会長をはじめ同行していただいた皆様には大変お世話になりました。
紙上をおかりして心からお礼を申し上げます。

第7回日本マスターズ柔道大会兼第1回アジアグラウンドマスターズオープン柔道大会

成績

【形の部】

1. 投の形

1位 取	イ・スンヒョン(韓国)
受	チョ・ミンホ(韓国)
2位 取	莞牟田 (兵庫)
受	玉田 誠(兵庫)
3位 取	石邑 勇千葉)
受	鈴木 治雄(千葉)

2. 固の形

1位 取	長崎 桂子(石川)
受	北 由美子(石川)
2位 取	栗原 正幸(埼玉)
受	田中 茂東京)
3位 取	竹内 紀久夫(静岡)
受	高林 裕介(静岡)

3. 極の形

1位 取	新田 眞輝(新潟)
受	神田 福雄(新潟)
2位 取	長谷川 和治(新潟)
受	雪 孝光(新潟)
3位 取	チョ・ビュングウン(韓国)
受	バクノウ・スグ(韓国)

4. 柔の形

1位 取	大宮 民子(愛知)
受	横山 悦子(福井)
2位 取	松本 紀子(愛知)
受	石川 正栄(愛知)
3位 取	稲川 郁子(東京)
受	阿部 恭子(東京)

5. 講道館護身術

1位 取	榎本 好根(愛知)
受	中村 太(愛知)
2位 取	一瀬 誠(静岡)
受	竹内 紀久夫(静岡)
3位 取	内藤 純(栃木)
受	植木 良夫(栃木)
取	甲斐 浩二(宮崎)
受	伊福 義雄(宮崎)

6. 五の形

1位 取	竹淵 典子(埼玉)
受	高橋 広美(埼玉)
2位 取	鈴木 一平(福島)
受	小竹 邦元(福島)
3位 取	安河内 浩(東京)
受	杉原 尚(茨城)

7. 古式の形

1位 取	清水 正敬(東京)
受	清家 春夫(千葉)
2位 取	村上 敬和(新潟)
受	吉田 幸(新潟)
3位 取	小林 潔司(千葉)
受	加藤 隆雄(埼玉)

【年齢別体重別】

-60 kg

M1 優勝	高田 直樹(岩手)
準優勝	林 健太郎(埼玉)
3位	栗原 正幸(埼玉)
M2 優勝	荒井 功(東京)
準優勝	佐藤 政美(宮城)
3位	石田 毅志(埼玉)
M3 優勝	安井 重臣(石川)
準優勝	金野 雄(岩手)
3位	吉嶋 大二(東京)
M4 優勝	荒木 秀(新潟)
準優勝	小玉 勉(兵庫)
3位	森田 賢(静岡)
M5 優勝	三木 義則(兵庫)
準優勝	川住 健蔵(新潟)
3位	北尾 浩(兵庫)
M6 優勝	北尾 浩(兵庫)
準優勝	大矢 八平(兵庫)
3位	鍋浦 正香川)
M7 優勝	鍋浦 正香川)
準優勝	福田 政次(栃木)
3位	マリック・イエセン・バイエフ (カザフスタン)
M8 優勝	加藤 忠勝(東京)
準優勝	清水 周(東京)
3位	相田 盛良(長崎)
橋 春夫(大阪)	

-66 kg

M1 優勝	ジュリアン・ガルシア (アルゼンチン)
準優勝	向井 一浩(東京)
3位	長岡 剛(埼玉)
M2 優勝	オグヌーン・ナランゲリ (モンゴル)
準優勝	中山 幸久(大阪)
3位	石田 昌久(神奈川)
M3 優勝	林 秀樹(宮城)
準優勝	グスタボ・ピカッテ (アルゼンチン)
3位	今嶋 禄郎(大阪)
M4 優勝	喜多 康之(大阪)
準優勝	平野 健太郎(千葉)
3位	保科 匠吾(富山)
M5 優勝	梶 泰章(神奈川)
準優勝	養父 洋介(兵庫)
3位	菅井 賢(茨城)
M6 優勝	田中 茂(東京)
準優勝	守屋 榮吉(岩手)
3位	田名 宏章(宮崎)
原 優(東京)	

-73 kg

M1 優勝	安達 真也(新潟)
準優勝	近藤 敏仁(愛知)
3位	初鹿野 裕樹(東京)
M2 優勝	内藤 智弘(栃木)
準優勝	相原 友和(静岡)
3位	佐藤 真生(宮城)
M3 優勝	宮本 功三(東京)
準優勝	高橋 忠宏(富山)
3位	長谷川 浩(東京)
M4 優勝	山下 義寛(石川)
準優勝	上野 純(石川)
3位	西出 大作(和歌山)
M5 優勝	小竹 邦元(福島)

準優勝 飯塚 雅彦(群馬) 3位 佐藤 光磨(青森) 重森 敏行(愛媛) 佐々木 秀人(山梨) 準優勝 倉野 祐(岐阜) 3位 土谷 勝廣(千葉) 一言 力(静岡) 準優勝 久宮 登三(栃木) 3位 片桐 清司(滋賀) 佐々木 安廣(岩手) 大森 伸洋(群馬) 準優勝 西尾 勝彦(奈良) 3位 野島 圭介(新潟) 中島 道雄(新潟) 二村 雄次(愛知) 内藤 純(栃木) 準優勝 久保田 友治(東京) 3位 飯谷 悟(兵庫) 高橋 勘十(岩手) 準優勝 安河内 浩(東京) 3位 竹安 晃照(東京) 野口 宏水(東京) 中山 孝行(富山) 美濃岡 清三郎(兵庫) M12 優勝 M11 優勝 -81 kg M1 優勝 牛木 幹人(新潟) 準優勝 田中 博幸(石川) 3位 大久保 健二(新潟) 高岡 浩平(石川) M2 優勝 佐藤 康(山形) 準優勝 岩田 竜二(大阪) 3位 斎藤 康則(東京) 笹谷 敏明(北海道)	M3 優勝 長谷川 靖二郎(大阪) 準優勝 ゴンボスレン・エルトン バイエル(モンゴル) 3位 高野 賢司(東京) ジョミン(韓国) M4 優勝 マハンヘッド・トレウガジン (カザフスタン) 準優勝 石松 裕幸(千葉) 3位 園田 和雄(東京) 相本 智彦(兵庫) M5 優勝 加藤 彰二(愛知) 準優勝 井出 宗治(滋賀) 3位 藤井 正彦(新潟) 小池 伸治(神奈川) M6 優勝 横山 孝信(石川) 準優勝 伊福 義雄(宮崎) 3位 阿古 裕弘(奈良) 高橋 信二(岩手) M7 優勝 諸山 和美(愛知) 準優勝 吉成 隆杜(東京) 3位 デイハエイヤエディ (ベルギー) イジエオン(韓国) M8 優勝 三橋 英夫(神奈川) 準優勝 清家 春夫(千葉) 3位 大塚 治城(神奈川) 鈴木 治雄(千葉) M9 優勝 川上 勝(岡山) 準優勝 小嶋 博美(愛知) 3位 毛利 修(埼玉) 佐藤 勝志(東京) M10 優勝 副島 正秋(神奈川) M11 優勝 原田 照夫(埼玉) M12 優勝 上島 彬(大分)	M1 優勝 長谷川 信之(埼玉) 準優勝 渡辺 寿徳(福岡) 3位 小山 敬上(大阪) M2 優勝 菅野 隆行(岩手) 準優勝 ダンデイスレン・バット サイハン(モンゴル) 3位 ロフ・レビー (ニュージーランド) 栄 亮次(東京) M3 優勝 壇上 竜二(愛知) 準優勝 小坂 重人(秋田) 3位 奥野 仁(宮崎) 木下 幸彦(新潟) M4 優勝 森本 正則(滋賀) 準優勝 木村 友慈(奈良) 3位 宮本 隆弘(神奈川) 大野 正人(新潟) M5 優勝 水野 博介(愛知) 準優勝 牧岡 卓(神奈川) 3位 荒木 一則(大阪) ツドノム・イルヒン・バイル (モンゴル) M6 優勝 ト部 秀幸(愛知) 準優勝 大塚 俊彦(埼玉) M7 優勝 山本 昭(兵庫) 準優勝 佐藤 勲(新潟) 3位 向博文(埼玉) 今立 孜秋(田) M8 優勝 今里 宏一郎(東京) 準優勝 池田 正男(兵庫) 3位 大上 敏幸(東京) M9 優勝 栗本 忠弘(大阪)	準優勝 駒井 和雄(北海道) M10 優勝 森本 唯行(神奈川) M11 優勝 太田 尚充(青森) -100 kg M1 優勝 河井 大介(新潟) 準優勝 斎藤 佑(新潟) M2 優勝 千葉 記位(神奈川) 準優勝 竹石 健(新潟) 3位 中田 浩(高知) 富永 忠雄(福岡) M3 優勝 大倉 康二(新潟) 準優勝 川坂 修治(石川) 3位 長谷川 靖浩(千葉) 原口 正秀(福岡) M4 優勝 南 睦志(滋賀) 準優勝 川野 昭彦(千葉) 3位 渡辺 恵二(埼玉) M5 優勝 清野 洋二(宮城) 準優勝 佐々木 政彦(埼玉) 3位 中山 章司(香川) 対馬 勝美(青森) M6 優勝 神園 修二(東京) M7 優勝 アーサー・カナリオ (アメリカ) 準優勝 安立 俊二(兵庫) 3位 アミラード・ミツチエ (ニュージーランド) M9 優勝 リック・リトルウッド (ニュージーランド) 準優勝 工藤 兼雄(秋田) M10 優勝 奈良 澄(愛知) M11 優勝 パット・トナー (ニュージーランド)	+100 kg M1 優勝 松原 勝利(高知) 準優勝 阿部 哲也(新潟) 3位 斎藤 敏行(宮城) M2 優勝 熊谷 修(東京) 準優勝 加納 幸喜(神奈川) 3位 井上 省司(千葉) 熊谷 孝寿(秋田) M3 優勝 松山 尚弘(福岡) 準優勝 葉山 充(東京) 3位 鈴木 巧(静岡) M4 優勝 セルゲイ・アムリザノフ (カザフスタン) 準優勝 田中 利明(福岡) 3位 窪田 智之(愛知) M5 優勝 登藤 寿秋(田) M6 優勝 足羽 裕二(兵庫) M7 優勝 吉永 豊喜(大阪) M8 優勝 本田 喬(新潟) -52 kg F1 優勝 内藤 クリステイ(栃木) F4 優勝 石川 正栄(愛知) -57 kg F1 優勝 後藤 智栄美(山形) F2 優勝 サンディ・ヴナラントヤ (モンゴル) F3 優勝 田畑 美和(宮崎) F5 優勝 岡本 敦子(北海道) F8 優勝 長崎 桂子(石川) -63 kg
---	--	--	---	---

F1 優勝 木滑 曉美(新潟) F2 優勝 ナムダグ・ツェグメッド (モンゴル) F3 優勝 松本 紀子(愛知) F4 優勝 北 由美子(石川) F7 優勝 今立 篤子(秋田) F4 優勝 木下 京子(宮崎) -70 kg F2 優勝 阿部 恭子(東京) 準優勝 チューロン・オントン ガダツク(モンゴル) -78 kg F2 優勝 バトナム・ポロルサツガル (モンゴル) 準優勝 ダシユウ・アルタンツラヤ (モンゴル) +78 kg F3 優勝 栄 弘子(東京) F4 優勝 バダマルガー・アラトン ソウダ(モンゴル) 【体重無差別の部】 M1 優勝 牛木 幹人(新潟) 準優勝 渡辺 寿徳(福岡) 3 位 向井 一浩(東京) 惣田 充(神奈川) M2 優勝 佐藤 廉(山形) 準優勝 ロフ・レビー (ニュージーランド)	3 位 熊谷 修(東京) 信国 文孝(福岡) M3 優勝 桧山 尚弘(福岡) 準優勝 緒方 正憲(福岡) 3 位 高林 透(北海道) 古川 克二(滋賀) M4 優勝 亀井 隆平(新潟) 準優勝 中野 眞利(大阪) 3 位 野口 修(大阪) 佐々木 裕二(長崎) M5 優勝 小池 伸治(神奈川) 準優勝 佐々木 政彦(埼玉) 3 位 牧岡 卓(神奈川) 村上 和男(宮崎) M6 優勝 神園 修二(東京) 準優勝 上木 保男(千葉) 3 位 阿古 裕弘(奈良) 平野 相徳(和歌山) M7 優勝 吉成 隆杜(東京) 準優勝 久保 雅昭(東京) 3 位 吉永 豊貴(大阪) 浅田 三男(神奈川) M8 優勝 山城 武史(京都) 準優勝 本田 喬(新潟) 3 位 五十嵐 徳英(千葉) 野島 圭介(新潟) M9 優勝 リック・リトルウッド	(ニュージーランド) 準優勝 仁木 征輝(岡山) 3 位 駒井 和雄(北海道) 工藤 兼雄(秋田) M10 優勝 栗村 曜似(滋賀) 準優勝 奈良 澄(愛知) 3 位 小川 榮一郎(千葉) M11 優勝 太田 尚充(青森) 準優勝 原田 照夫(埼玉) 3 位 中山 孝行(富山) M12 優勝 上島 彬(大分) 準優勝 美濃岡 清三郎(兵庫) F2 優勝 稲川 郁子(東京) F3 優勝 田畑 美和(宮崎) F4 優勝 木下 京子(宮崎) 【団体戦の部】 ■男子一回戦 柔錬会7―2高崎支部桜井道場連合 三田綱町7―3―4上越市柔道連盟 丸の内柔道7―2―4慈愛会 新潟中越3―4昭徳館 ■男子準決勝 柔錬会4―2上越市柔道連盟 慈愛会3―③昭徳館 ■男子決勝 柔錬会 5―2 昭徳館 (兵庫・中村古) (栃木・内藤純)
--	--	---

先鋒	信國文孝	—	○	内藤智弘
次鋒	諸方正憲	—	○	齊五沢学
3	亀井隆平	×		石井一宏
4	木村友慈	○	—	木村敏明
5	足羽裕二	—		田所英幸
6	安立俊二	⊖	—	大塚俊彦
7	山本 昭	⊖	—	久宮登三夫
8	大矢八平	○	—	飯塚正春
副将	中井司朗	×		内藤純
大将	栗村曜似	○	—	原田照夫
■女子一回戦				
昭徳館○—×モンゴル				
■女子準決勝				
高島平柔道会2—1昭徳館				
ナチユル0—3新潟B&W				
■女子決勝				
高島平柔道会0—2新潟B&W				
(東京：稲川郁子) (新潟：山田美貴)				
先鋒 阿部恭子—○山田美貴				
中堅 稲川郁子×益江せつ子				
大将 — —○木屋好絵				

断糖宣言

内藤光伸

(神奈川県)

平成二十二年九月二十五
日午後四時、長岡市総合体育
館二階で計量、体重六十五kg。



經驗のない減量を手探りでやつた割りには運よくパス。体育館の一階におり、早速用意してきた弁当を食す。三年前より糖尿病対策として断糖食事療法を取り入れ自前の食事を作つて来た。ここ半年ほどで随分と料理の腕前が上がつたと自画自賛！勝手なことを言いながら自作弁当を食しているうち、昨日らしい空腹の上に満足感が一気に出たせいか、眠つてしまつた。

揺らぎ不安は赤信号になる。
平成二十年二月九日、狭心症で入院・手術。同時期、脊柱管狭窄症による腰膝の痺痛。共に糖尿病による合併症が指摘される。その後、治療の為、著名医師、有名病院をたずねるが一進一退、リバウンド防ぐために精神力が強く問われる。医師が十人いれば、十色の処方箋を出すのがこの世の常で、医者任せの治療では、どんな病気も良くならないと自覚。治療方法の選択には、自分の体のことは誰よりも良く知っている……確固たる信念と自己管理力が問われること痛感。そんな折、“断糖宣言”の著者、荒木裕氏に巡り合い、大いに仏縁を感じた。以後、“柔道復帰”を合言葉に断糖宣言に邁進。

平成二十二年九月二十六日午前九時、第七回日本マスターズ柔道大会（及び第一回アジア・グランドマスターズ柔道大会）のM8クラスの一回戦は長岡市総合体育館（マツト6）で開始された。わたしの166kgの第一回戦は不戦勝、第二戦はお世話になっている二金会の先生。よく知っていたのでやり難い。途中で胸を強打し、試合前の不安が的中した感じ。対戦相手の

先生方の真摯な柔道に対し、大いに緊張もしたが、本大会では試合前、中を通しマスターズ協会の先生方の心温まる助言や励まし、応援をいただき、万感の思いで決勝（第4試合目）を終了することが出来た！六十七歳一ヶ月。計4回の試合結果は、不戦勝①、優勢勝①、一本勝②と予想を遥かに超える成績でM8（166kg）の優勝。皆様のお陰で人生最良の一日を頂きました。改めてここに厚く感謝しお礼申し上げます。小西先生の分までがんばりました。

日本マスターズ協会“二金会”に参加して15ヶ月が経過、厳粛な稽古の後の反省会！心ころ温まるエールの交換、素晴らしい仲間、生涯柔道に乾杯！楽しいかなマスターズ！というのが正直な心境。長岡大会の勝利は一つの通過点。マスターズ柔道に参加して、体調管理、病気との付き合い方から克服へと、大いに自信を深め得たことが、何よりも大きな長岡大会の収穫でした。

今後断糖宣言を続け、生涯柔道を通して世界の“草の根交流”に貢献し、また先輩先生

を見習い七十歳を超えても尚、現役で試合に挑戦出来るマスターズ柔道家でありたいと願っております。

高橋勘十相談役が「第5回日本スポーツグランプリ」を受賞されました



日本スポーツグランプリ表彰 平成22年9月25日（土）

高橋 勘十さん（79歳、岩手県、柔道）

昭和39年から現在まで全国柔道高段者大会に35回出場。世界マスターズ柔道選手権大会73kg級において平成15年から現在まで7年連続優勝。

中村浩之先生が平成22年度外務大臣表彰されました



2010年8月 志道館於

12回世界マスターズ大会 モントリオール試合後 カナダの志道館道場に訪問し交流会を行い大変お世話になりました中村浩之先生（中大OB）が、平成22年度外務大臣表彰されました。

【事務局よりのご連絡】
昨年の十一月より日本マスターズ柔道協会のホームページアドレスが変更となっています。
<http://mjia.jp/>

今後、ホームページを活用して、よりタイムリーに双方の情報交換ができるよう検討しております。

具体的な内容は、決定次第ホームページ内で随時お知らせしていきます

玉田 誠

【編集後記】

2010年は2月、愛知県瀬戸柔道会（大宮民子会長長訪問。5月、第2回IJF世界形選手権大会・第2回世界グランドマスターズ柔道大会。8月、第12回世界マスターズ柔道大会。9月、第7回日本マスターズ柔道大会兼第1回アジアグランドマスターズオープン柔道大会とビックイベントが続きました。多年に亘り会報を担当していただいた永島健次郎先輩から西久保博信がバトンタッチをお受けしました。会報の編集モデルは総て永島先輩のスタイルを踏襲させていただきました。永島先輩「有難うございました」

西久保博信